

巻頭言

期待される 大学図書館コンソーシアムの 活動と新たな展開

図書館情報センター館長 寶多 國弘



CAN私立大学コンソーシアム (consortium) の活動開始10周年を記念して、平成24年1月に3大学4図書館長ミニ講演会が中部大学リサーチセンターにおいて開催されました。当日は、学生はじめ一般市民60余名の方々にご来聴いただき、講演会後に来聴者とのささやかな懇談会も持たれました。ミニと冠された短時間の講演会ではありましたが、設立趣旨に沿った共同活動の成果が活かされた、真に相応しい記念事業となりました。本学からは、講師として歯学・薬学図書館情報センター長中垣先生(当時)と小生が出席しました。1年近くにわたって準備に尽力された、幹事校である中部大学附属三浦記念図書館館員はじめ、各大学関係職員の皆さんに改めて厚く御礼を申し上げます。

CAN私立大学コンソーシアムは、中部大学・愛知学院大学・南山大学の3大学図書館が提携して結成した図書館活動の協同組織であり、中部地区における大学図書館活動のネットワーク化の先駆けとして誕生しました。加盟図書館の「共通の目的や利益を達成するために、共同で事業を行い、加盟館の発展に寄与すること」を目的としています。名称の「CAN」とは、3大学のローマ字表記の頭文字を並べたもので、「できることをできるところから」といった活動展開のキャッチフレーズの基にもなっています。

主な共同活動として、①結成の切っ掛けとなったデータベースの共同購入、②図書館相互利用(加盟大学の学生と教職員は、紹介状なしに加盟図書館を自由に利用できる。さらに、所属する大学図書館窓口で、加盟館の資料や蔵書の取り寄せ・借出し・返却ができる。)、③図書館職員の相互研修、④CANホームページの運用、⑤CANパスファインダー(pathfinder)の作成などが挙げられます。世話役の幹事校を加盟館で持ち回りとし、年3回の定期的な会議を開催して直面する共通の問題や課題への意見交換がなされています。また、図書館活動における問題意識や情報の共有、職員の相互研修による啓発活動、広報グッズの制作などで大きな成果を上げています。まさにCANコンソーシアムは、大学図書館の利用者にとって大きな便益(benefits)を提供する広域ネットワーク・システムであり、加盟図書館職員の研修の場であり、親睦を深める交流の場になっていると言えます。

CANコンソーシアムのさらなる発展を目指して、10年の歩みを振り返り、指摘されてきた共同活動の拡充(広報活動の推進、資料の分担収集・保存や合同勉強会の開催などの新規共同事業の展開、サービス拡大のための加盟大学図書館の増加や他地域のコンソーシアムとの連携など)が精力的に検討されています。

本学の学生諸君や教職員の皆さんに、こうした活動を知っていただき、大いにご利用いただきたいと思えます。3大学の図書館の特色を活かして相互利用が広がり、加盟館のWin-Win-Winの関係が保たれつつ、一層の発展的な運営がなされることを願っています。